

# 医療系学生の保育所実習による子育て支援～医療職（医師・看護師）を目指す学生の人間力を高める～

寺嶋吉保<sup>1\*</sup>、長宗雅美<sup>1</sup>、小野香代子<sup>1</sup>、山田進一<sup>2</sup>、黒葛原健太郎<sup>3</sup>、安井夏生<sup>1</sup>、多田敏子<sup>4</sup>、松本俊夫<sup>5</sup>、佐野勝徳<sup>6</sup>

取組指導 鳥取大学医学部教育支援室助教授 高塚人志

<sup>1</sup> 徳島大学・ヘルスバイオサイエンス研究部・医療教育センター、<sup>2</sup> 健生病院小児科、<sup>3</sup> 中部学院大学短期大学部幼児教育学科、<sup>4</sup> 保健学科看護学専攻主任、<sup>5</sup> 徳島大学医学部長、\* 取組み推進責任者、<sup>6</sup> 全学共通教育センター長

現代では、人間関係が希薄になり「人」が成長しにくくなっている。「役立ち感」「自己肯定感」に乏しく、社会性・人間性が未熟な若者が少なくない。今、大学教育には、**専門的な能力**の獲得とともに、**人間力**を高めることが求められている。

**目的** 1 継続的な乳幼児とのかかわりの中から、**ホスピタリティ・マインド**を実体験として学び、**自らの人間関係を見直す**機会とする。

**人間力を高め、将来患者さんと向き合える医療者を育む一助**

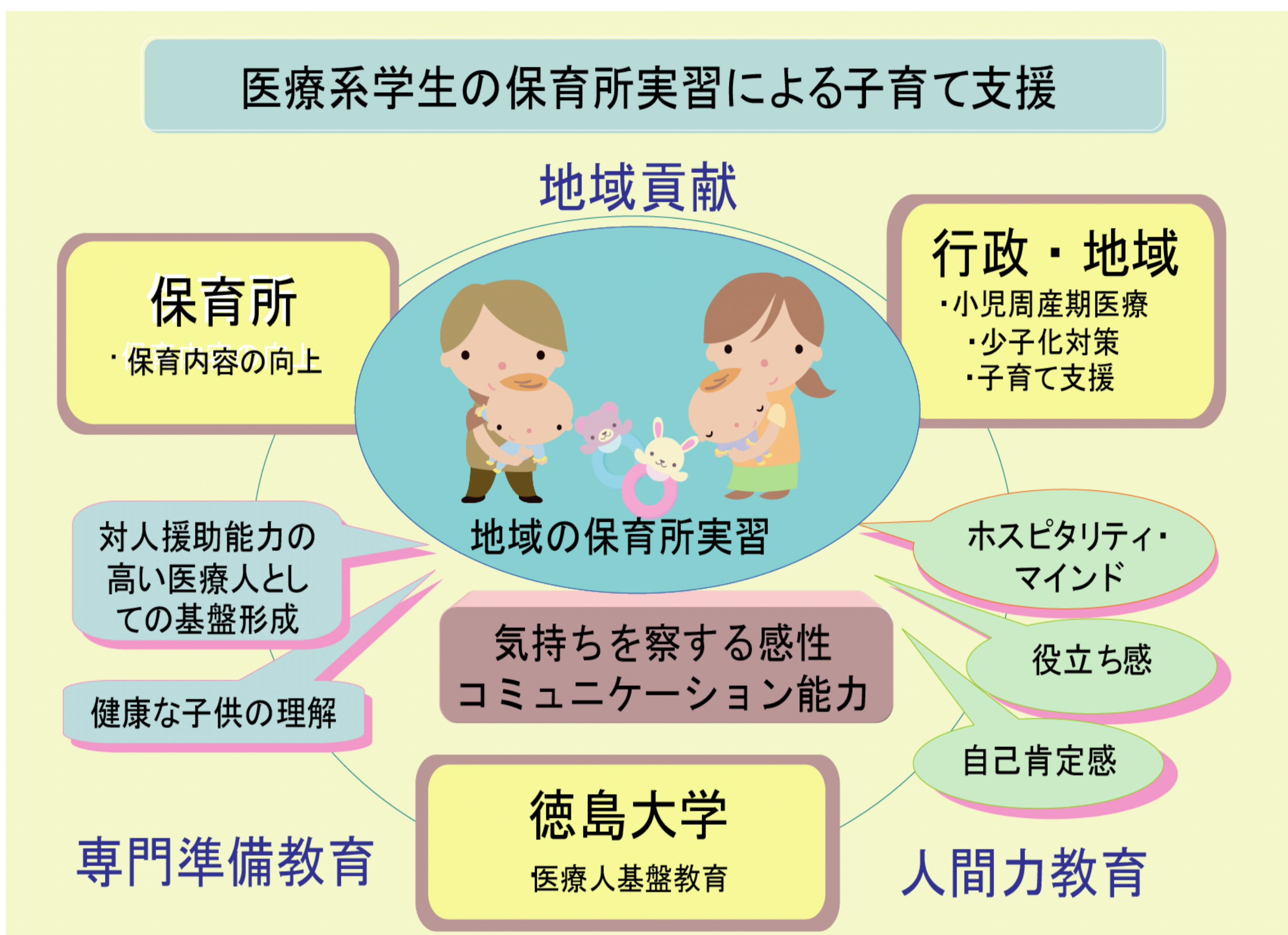
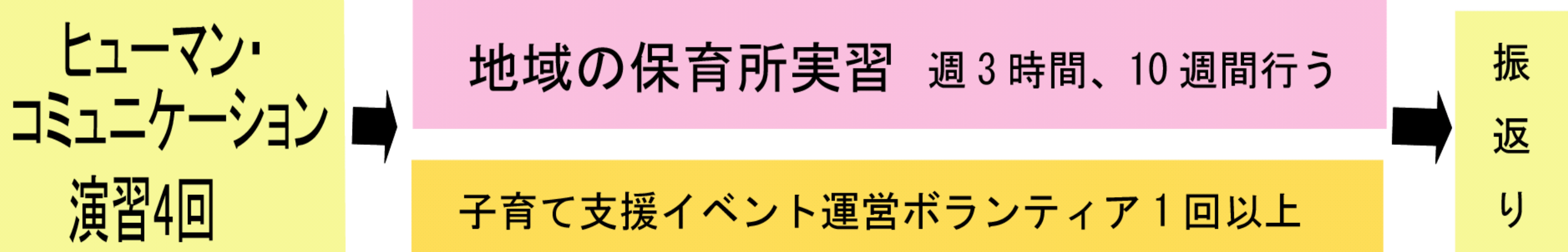
2 学生の交流を通して、**地域の子育てを支援**する

\*ホスピタリティ・マインド  
マニュアル化されたサービスなどではなく、相手の立場に立って相手が心地よさを感じるような心遣いの意識を持って接すること。又は、その意識。

## 行動目標

- 1 **基本的なマナー**を身に付ける。
- 2 常に相手と視線を合わせて接し、相手の話に積極的に耳を傾け、**相手の考えや気持ちを受け止める**ことができる。
- 3 自分の気持ちや考えを**相手に伝える**ことができる。
- 4 仲間の様子に目を向けることができ、**ともに喜び**あったり、励ますことができる。
- 5 園児や仲間、指導者とのかかわりを通して、**自己を振りかえる**ことができる。

## 方法



## 期待される効果

- 学生への直接的な効果
- 基本的なマナー
  - ホスピタリティ・マインド
  - いのちの大切さ
  - 「役立ち感」「自己肯定感」
  - フィードバック体験
  - 信頼関係

## 地域社会への効果

- ・保育の向上
- ・保育士、保護者への啓発
- ・保健相談、問題提起

## 長期的な視点から期待する効果

- ・将来の 育児・出産に対する肯定的理解
- ・小児、周産期医療への関心（少子化対策）

## H18年度実施報告

・選択コースの枠組みで医学科(20名)対象に実施  
＜学生のつぶやき＞

・医者になって絶対にしてはいけないことの一つは、「相性が悪い」「何が言いたいのかわからない」と、相手に寄り添うことを放棄することだろう・・・

・素直な子どもの気持ちを知るのも大変なので、人の気持ちを理解するには本当に真剣に向き合わなければならないのだと思う。

・お別れの時、「お兄ちゃん、大好き～！」とぎゅ～っと抱きしめてくれた。本当に涙が出そうになるくらい嬉しかった。

・相手の表情や言葉が返ってきて、初めて自分の言葉や気持ちが相手に届いたと感ずることができたんだと思いました。

・一緒に砂遊びをしていて、自分も一瞬15年前にかえった気がした。

・子ども達と接していると、忘れていた大切なことを思い出したり、新しいことをたくさん発見できたりする。

・この実習を重ねるごとに、学生達の笑顔がどんどん素敵になっていった。みんなのこんないい笑顔には、もしこの実習がなかったら、ずっと気づかなかったかもしれない。

## 今後の予定

- ・平成19年度: 全学共通教育科目として、医学科1年生、保健学科看護学専攻1年生対象に実施  
10月: 第2回、3月: 第3回シンポジウム、中間報告
- ・平成20年度: 前年同様に実施  
12月: 第4回シンポジウム、最終報告

## ＜実習終了後アンケート結果＞

